参考資料１

第 11 次静岡県職業能力開発計画検討委員会設置要綱

（設置）

第１条　県内において行われる職業能力開発に関する施策の基本的方向を検討し、第 11 次静岡県職業能力開発計画（計画期間：令和４年度～８年度）を策定すること及び計画の進捗状況の評価を目的として、第 11 次静岡県職業能力開発計画検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事務）

第２条　委員会は、第 11 次静岡県職業能力開発計画の内容について協議する。

（組織）

第３条　委員会は、15 人以内の委員で組織する。

２　委員は、学識経験者、民間企業経営者、職業訓練関係者等のうちから知事が委嘱する。

（任期）

第４条　委員の任期は、委嘱の日から２年以内とする。ただし、委員が欠けた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第５条　委員会に委員長及び副委員長を置く。

２　委員長は、委員の互選による。

３　副委員長は、委員長が指名する。

４　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

５　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

６　委員長は、必要に応じ第３条に定める委員以外の者の出席を求めることができる。

（会議）

第６条　委員会の会議は、知事が招集し、委員長が議長となる。

（庶務）

第７条　委員会の庶務は、静岡県経済産業部就業支援局職業能力開発課において処理する。

（委任）

第８条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附　則

この要綱は、令和３年６月１日から施行する。

参考資料２

第 10 次計画の評価について　委員意見要旨

（令和３年 12 月 15 日、第２回第 11 次静岡県職業能力開発計画検討委員会資料）

１　第 10 次静岡県職業能力開発計画の評価［主な意見］

【全体】

・令和２年度以降の計画（期待値）に対する実績については、コロナ禍の影響が大きいことから、正確な評価は難しいと思われる。△の評価であっても、平成 29 年度の実績から R3 の目標値に近づいており、その取組みは評価できるところであり、**全体としては概ね良好に進捗されたと評価**できる。［畑委員、梶本委員、佐塚委員、佐野委員、三輪委員、望月委員］

・今後の状況をみて**目標値の変更も考慮した方が良い**と思う。［佐野委員］

・管理指標だけでなく、工科短期大学校の開校や技能実習生の拡大、モノづくりや技(ワザ)に対する再評価・重要性の再認識など、**前向きな成果が多くあった**ように思える。［大石委員］

【科学技術の進展】

・デジタル化の進展は著しく、求められる職業能力の多様化・高度化ともに、学ぶ機会のあり方も大きく変化しているため、**時代変化に合わせた施策運営が求められる**。［大石委員］

【工科短期大学校】

・技術専門校の定員充足率について、学校の立地、設備、進路が重要である。草薙駅北口の再開発や短大化により始めの２つは満たしている。**卒業生の就職先については、誰もが知っている大手の企業があると、評価されやすい**。［松村委員］

２　第 10 次静岡県職業能力開発計画の評価［各委員の意見］

委員名	内　容
池上委員 （静岡文化芸術大学）	・ **定住外国人訓練**の開催地域を増やしたことをどう伝えているかが大事である。文字情報だけでは外国人に伝わらない。**外国人がどのように情報を入手しているか掴んでいく**と提供先が見えてくる。R2 が 67 人ぐらいに増えていることを期待していた。しかし、増えたのはよかった。 ・ 工科短期大学校に留学生が入るのは、それが新しいニーズなのかもしれない。
大石委員 （静岡経済研究所）	・ 令和２年からコロナ禍にあって、諸施策が打てなかったり遅れたりする状況にあり、進捗評価も△(更に努めていく)が多い。 ・ 最終年の令和３年も積極的な取り組みが実施できない状況にある中で、**施策の方向性は的確であるので、実施方法や手段等を工夫して地道に成果を上げて欲しい**。 ・ 計画期間中、デジタル化の進展は著しく、求められる職業能力の多様化・高度化ともに、学ぶ機会のあり方も大きく変化しているため、**時代変化に合わせた施策運営が求められる**。 ・ 職業能力開発計画としては、管理指標だけでなく、**工科短期大学校の開校や技能実習生の拡大、モノづくりや技（ワザ）に対する再評価・重要性の再認識など、前向きな成果が多くあったように思える**。
大瀧委員 （高等学校 PTA 連合会）	・ **職人が足りない**。新卒を採用しても、入社直後は技術がなく、技術を教えている間に辞めてしまう。**親方も教えてばかりいられず困っている**。 ・ 在職者訓練などが使えたとしても、その情報が困っている企業に届いていない。

委員名	内　容
梶本委員 (ﾊｰﾊｰｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ)	・ 大方は計画通りに行われていると思う。 ・ コロナの影響で残念ながら不十分になってしまった事もあると思うが、**アフターコロナを見据えながら徐々に実行されていく事を期待**している。
久保田委員 (静岡県職業教育振興会)	・ 【柱１】現場主義に徹した人材育成について進捗評価が高いが、施策の方向性にブレがなく具体的な取り組みも進んでいて良い。**コロナ禍が続く中、離転職訓練の価値が向上すると思われる。求人ニーズを掴んだメニュー開発・普及啓発・就職支援をさらに推進してほしい**。 ・ 【柱２・３】ものづくりに従事する人々の価値が評価され、人数も安定確保できる状況が、持続可能な「ものづくり県」をつくる。各項目△の並ぶ進捗評価を拝見し、今後に期待する。特に**企業の個別ニーズにこたえるオーダーメイド型在職者訓練など、現場主義の強みを活かした企画は、ノウハウの蓄積により他の訓練に横展開できるのではないか**。 ・ 【柱４】技術革新が進む中、高度産業人材の育成を牽引し、**企業との連携も進んでいる。更なる拡充を進めてほしい**。 ・ 【柱５】働き方も複線型と呼ばれる VUCA の時代、各ライフステージで職**業能力向上機会の需要は増していく**ことが予想される。**提供機会の更なる普及啓発を進めてほしい**。
佐塚委員 (静岡県中小企業団体中央会)	・ コロナ禍にあって事業活動が制限されていたため、定量的な目標を達成することは困難である。従って、当該数値のみをもって評価することはないと考える。 ・ そうした中にあって、「想定以上に進んでいる」とする項目については素晴らしいことである。 ・ 本年度も昨年度と同様の状況下であるが、目標達成に向けて工夫しながら推進してもらいたい。
佐野委員 (ジヤトコ)	・ 新型コロナウィルス感染防止の為の中止などの影響で△が多くあったと思うが、**今後の状況をみて目標値の変更も考慮した方が良い**と思う。 ・ 実際に弊社でも外的な要因で進捗が進まないときは、目標値の変更をしている。
畑委員 (㈱高齢・障害・求職者雇用支援機構　静岡支部)	・ 令和２年度以降の計画(期待値)に対する実績ついては、コロナ禍の影響が大きいことから、正確な評価は難しいと思われる。△の評価であっても、平成 29 年度の実績から R3 の目標値に近づいており、その取組みは評価できるところであり、**全体としては概ね良好に進捗されたと評価**できる。 ・ 特に、小中学生の頃から、ものづくりや技能に興味を持ってもらい、静岡県の製造業を支える人材となるきっかけとして、**『WAZA チャレンジ』は有効な事業だと思う**、**これに携わるマイスターの方の貢献にも評価したい**と思う。

委員名	内　容
松村委員 (静岡県工業高校校長会)	・「１　現場主義に徹した人材育成」「２　技術・技能を尊重する社会の実現」において、**「児童生徒への企業、技能者等からの学ぶ機会の提供」「ものづくり体験の機会の提供」は**、児童生徒への職業観の涵養や年長者への尊厳の意味でも**継続してほしい**。また、中学の「技術家庭」の授業の補完的意味でも是非協力してほしい。**ものづくりや技術の楽しさに興味関心を持ち、専門高校や工科短期大学校において、専門性を高めさせたい**。 ・「３　多様な人材が能力を発揮できる能力の習得」「４　社会の変化に対応できる能力の習得」「５　ライフステージに対応した職業能力の開発」において、技術専門校の短大化は、実習に重きを置いてのハードなカリキュラムであるが、即戦力としての力をつけることが予想され卒業時が楽しみである。 ・技術専門校の定員充足率について、学校の立地、設備、進路が重要である。草薙駅北口の再開発や短大化により始めの２つは満たしている。**卒業生の就職先については、誰もが知っている大手の企業があると、評価されやすい**。 ・**労働生産人口の減少する中で女性の生産関係職への進出は重要**である。科学技術高校には女子生徒が 17%(176 名)であるが、この中で、ＩＴや旋盤や木工などの作業への目的意識をもって入学してくる生徒も少なくない。 ・**本校定時制と技術専門校とは技能連携し、単位を修得認定する制度があるが、工科短期大学校においても、在職者や離転職するためのカリキュラムが残るようであれば、これを継続してほしい**。
三輪委員 （日管）	・コロナ禍で実績が低下したものは仕方がない。 ・日管では、最初は事務職で入社しても、希望して現場監督をしている女性社員もいる。女性でも自分で何かしなければという意識で入社した者は真剣である。**実学がかなり大事だというのが女性の中にもある**。
望月委員 (静岡県職業能力開発協会)	・管理指標の中には、目標達成に向け努力を続けていても、現コロナ禍においては依然として厳しい状況のものもあると思われる。 ・そこで、原因の分析を正確に行い、**コロナの影響により進捗が思わしくない指標等の計画対象期間終了後の総括的な評価に関しては、ある程度、柔軟に捉えていくことも必要**である。
山本委員 (㈱天竜厚生会)	・進捗評価項目全体の 50%以上が、△である。理由や取り組みの内容を見れば前年度数値との差はそれほど大きくない。にもかかわらず、到達できなかったことに意外性を感ずる。**目標が全体に浸透していないのではないかと感じた**。